三月一日　夕刊

常磐毎日新聞

定價一部金貳錢　月金五拾錢郵送五圓
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　平崎　茂
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社
電話六二〇番
印刷所　常磐毎日新聞株式會社

常磐炭田の開發と一片寄平藏【六】

山口彌一郎

6　仁井田浦築港

石炭の積出港は小名濱港で、小名濱は幕府の直領で、積出の運上は幕府に納入されて平藏の領主である笠間侯に入らず且つ笠間領内の貢米積出の港は不完全な江網、四倉の二港あるだけで藩民は良港を望んでゐた。笠間藩の用人田村嚴雄氏は當時藩中の逸才と稱されてゐた。平藏の大事業家であり彼れと親交ある爲め築港の急を說いた。平藏氏大いに感ずる處あり一藩の皆々に謀つたのに藩士も之に賛同し終に主君に大浦村上仁井田地内仁井田浦の砂濱に築港の計畫を立て萬延元年三月平藏氏笠間公牧野越中守より工事の監督を命ぜられ、奉行武藤盛兵衛氏及び代官長壽作氏外當時笠間藩出張政務所であつた神谷陣屋の諸士ならびに領内各村の名主等と共に日々人夫數百人を使役し土工を始めた。仁井田浦は四ッ倉と豊間の間にある孤城の砂濱で船を寄することは出來ない。それで仁井田浦字東山海岸より洋中に凡そ百間餘の小半島を築き其端に直ちに大船を寄する樣に設計し激浪の爲め難工事なるを知り特に三角枠を作り之を沈めて土石を盛つた。工事は數月で竣成し海波は之れが爲めに穩かで運輸の便寧ろ江網四ッ倉の二港に劣らない程であつた笠間侯大いに其竣工を喜び君を賞して永代鄕士格とされた。

【朝】味噌汁——豆腐に付燒のり
【晝】はせ佃煮　らつきやう
【晩】茶めし——のつぺい汁

明日の献立

然し仁井田浦築港は幾ばくもなく海潮の爲めに破られ、平藏既に世を去り、世も忽ち一變戊辰の改革となり修築もならず、現在は殆んど其影だに窺え得なくなつた。

五、死去と困窮

1　死去

萬延元年八月三日商用にて江戸に滯在中病を得て平藏は忽焉と晩年　常磐炭田の發見と言ふ偉業を殘し年四十八歳で此の世を去つた。死骸は白骨として鄕里に持ち歸り、自宅背山の大森村字館の丘上に葬る號して至誠院釋汐柱良徹居士と稱する。

平藏氏には二男一女があつた。長男を熊藏と言つた湯本村十久保退兵衛氏の妹を娶つて一子遠藤の男孫唯助があつたが、熊藏二十一才で安政二年正月二日夭折した。そして江戸大阪辺に見習ひ奉行に出てゐた次男平右衛門を呼び戻し熊藏の妻と取合はせ唯助と交とした。平藏氏の急逝に會ひ平左衛門が家督を相續して女はのぶと言ふ。祖父利兵衛の庶子勇五郎に嫁したが勇五郎は文久三年北海道で死去した。後一郎をとり名を利平と言ふ現生の藥谷平藏は其の子である。

2　困窮と明石屋の援助

一代の大事業家平藏氏の急逝に依つて大素封家であつた平藏も各種の事業に手を染めてゐた爲め、直ぐちに其全事業を引續ぐ事は困難であつた。それで先づ明石屋治右衛門と共に横濱開港の際求めた出店は先づ明石屋に讓渡する樣になつた

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六
大和田醫院
電話一七〇番

魂の這入つた！
自轉車と
リヤカー
フバタ式リヤカー發賣
フタバ商會
元　平新川町月見橋際

徒弟さん二、三名入用
希望者は至急御來店あれ……。
委細面談優遇す。
平警察署通り
魚清食堂部
電話六三三番

明治廿八年設立
實堅礎基
有給社員數名募集
男女ヲ問ハズ奮鬪家ハ來タレ
固定給及月收多大希望者ハ午前中來談アレ而會ノ上相談ス。
共保生命保險株式會社
磐城監督所
所長　福島健之
平町白銀町一〇
磐東代理店主管　加藤丈夫
平代理店　主管　金子豊吉

旭硝子株式會社製品
赤菱印　板ガラス
菓子壜
硝子食器
其他各種
製造販賣
松崎硝子製作所
平町新川町（電話一四二番）
◇支工場　仙臺市榮町（電五九七番）

吉田眼科病院
平紺屋町　電話六八番
眼科專門
院長　吉田安雄
醫學士　吉田久雄

白井博之儀二月七日死去仕候に付生前の御交誼を拜謝し謹告仕候
追て葬儀は來る三月四日午後一時鄕里福島縣石城郡上小川村自宅に於て佛式に依り相營み可申候
昭和九年二月二十五日
嗣子　白井一郎
親族總代　白井菊造
友人　淺野俊雄
　　山崎總一郎
　　安島重三郎
　　金田興三郎
　　佐藤成通郎
總代　鈴木辰三郎　佐藤庄太郎

外科
專門
X光線科
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

醤油が横綱格
平町の各種生産物
夫々増加の一途を歩む

平町役場では過般昨年度中に市内に於て産出したる

諸物品 の生産高並にその金額を調査中であつたがそれに依ると最高は名に負ふ『ヤマフル醤油』として聲價普ねき山崎合名會社

その他 町内數軒から醸造される醤油で此醸造高一千二百二十八石に上り金額四萬九千百二十圓といふ巨額に達した

又最近 頓に發達向上としてきた各種織物は合計七百十八反金額四千八百三十七圓でその内譯は縮緬四百八十三反（三千七百六十七圓）銘仙百四十五反（五百七圓）羽二重五十七反（三百四十二圓）絹織物三十三反（二百二十一圓）等であつたが今まで

大工業 の所屬として顧られなかつた織物業が小規模ながらも産出せらるゝことは「工業都市平町」の名を擧ぐるものとして喜ばしい、尚その他主なるものに味噌二萬七千六十貫、三千五百三十圓、又町内四十七頭の牛から搾取された

牛乳 が四百六石、一萬三千八百四圓といふ數字をみせてゐる

産業組合の普及猛運動
記念週間を機に

既報石城産業組合聯合會では來る六日より一週間に亘つて催される産業組合記念週間を機としこの期間中に於て大々的に組合事業の普及徹底の猛運動を開始、又左記の催物を行ふことに決定目下その準備をなしてゐる

（一日）週間計畫打合せデー（二日）趣旨宣傳デー（三日）購買品特賣デー（四日）記念式（五日）部落懇親會デー（六日）組合加入貯金勸誘デー（七日）事務整理デー

水試場長辭令 本縣水産試驗場長飛塚島次氏は既報の如く愛知縣水産試驗場長に榮轉後任は三重縣農林技師中山琢二氏と決定二十九日付で左の如く辭令發表さる

福島縣農林技師　飛塚高次
補　愛知縣農林技師
三重縣農林技師　中山琢三
補　福島縣農林技師

師範專攻合格 平第一小學校訓導大谷檄、小名濱小學校訓導中根武夫の兩君は過般行はれた本縣男子師範學校專攻科入學試驗に受驗見事合格した

宮中御召に
感激の正木校長
昨夜歸校して生徒に謹話
天盃を拜受

去る二十七日皇太子殿下御誕生の宮中御賀宴に御台の光榮に浴し昨夜歸校した磐女校長正木貞二郎氏は本日晝食後生徒一同を講堂に集め拜受した天盃及び御紋章入り御菓子等を拜觀せしめ竹の園生の御榮を壽ぐ謹話があつた

持米品薄の爲め
米價は益々騰る
けふの平農倉の共販注目さる

石城販賣利用組合平農業倉庫の共同販賣は本一日午後一時より行はれるが入札米は平町の八十八俵神谷八十六俵、勿來百廿一俵、草野四十三俵、計四百三十八俵である尚平地方の米價は既記の如く政府買上米に決定せる一の千二百五十俵の多數に及んで居るので農家持米は品薄となつた結果去月中旬迄九等一俵八圓二三十錢になつたものが現在八圓四十六錢と値上り今後も高値を豫想されて居る

蘭價低落
對策座談會

川部村農會では蘭價低落對策の農蠶業の經營方法を確立するため五日午前十時から同村小學校で經營座談會を開催

副業奬勵
具体策協議
錦農組役員會で

錦村農事實行組合では來る五日午前八時より役場内に役員會を開き本年度農家副業奬勵の具体策を協議する

縣視學が打合 既報昨日來平せる本縣水野縣視學は本日午前十時より平第一小學校に於て島久、夏井豊間、神谷、草野、大浦、四倉、大野、平窪、小川、赤井、川前、柳貫各小學校長と會合來年度に於ける學校職員の組織に就いて種々打合せた

磐中師範入學 本縣男子師範學校本年度入學試驗合格者は昨日發表されたが磐中關係合格者は受驗數三十三名中左記六名である（卒業生）赤津千町　米本恒久　石川喜義　大平幸男（松崎一美（在校生）水野良雄

湯本農事講習 湯本町農會主催の農事講習會は五日午前九時から同町關船勝藏院に於て開かれるが郡農習柴田技手出張講演する筈

勿來信組總會 勿來信用購買組合では來る五日午後一時より役場内に總會を開く

木年度豫算 並に役員の改選を行ふ

平町人事

回出生

△月見町二三　當時東京市
葛飾郡柴區町一ノ六六山崎六郎氏二男英雄

回死亡

△月見町二〇　當時東京市荒川區尾久町四ノ一五四吉田ヱッ（八五）
△十五丁目三〇久保田六五郎（六四）

父久保田六五郎儀三月一日死去仕候に付生前辱知諸彦に謹告仕候
追て葬儀は來る三日三日午後一時自宅出棺九品寺に於て佛式相營み申可候
昭和九年三月一日
平町十五丁目
嗣子　久保田英雄
親戚總代　室田駒藏
西森正吉
關内正一
友人總代　平澤勝次郎
袖山傳治

オールトーキー
丹下左膳
全勝日活超人作豪壯篇
大河内傳次郎 主演

東京日日新聞・讀賣新聞連載
林不忘 原作　伊藤大輔 監督
第一篇 全十三卷
舊正月十五日ヨリ八日間
毎日晝夜二回
晝午前十一時ヨリ　夜午后六時ヨリ
平

□掛持出張上映□
舊正月十五日ヨリ　磐城座
十六日ヨリ　海鹽座
十八日ヨリ　綾劇場
二十日ヨリ　豊盛座

友邦滿洲國の御大典奉祝

青沼町長祝電

本日滿洲新京に於いて盛大に行はれる大滿洲帝國の御大典に際し青沼平町長は本日左記祝電を滿洲國宮內大臣沈瑞麟氏に發した

御大典を奉祝し恭々しく聖壽の無窮を祝ひ奉る

縣稅滯納の父も

愛兒三人の純情に泣く

納稅美談

慰問袋採納

鈴木千代松氏寄附

平町新田前二六鈴木千代松氏が過般滿洲駐屯軍慰安の爲め慰問袋五十箇を造り町役場を經陸軍省へ寄附の届出した處直に採納され奉天關東軍倉庫に納入せられ度いとの指令が町役場へあつた

勿來町驛前川島雜貨店主柴田倉三氏長女アヤ子（一四）ちん妹文子さん弟廣三郎（一一）の三人姉弟は學校で納稅義務の大切な事を教えられ豫てより三人の小遣ひ錢を納稅袋に貯金し居たが去る廿五日父親が縣稅の督促を受けて困つて居た際四圓餘の金を袋から出して父親をホロりとさせた

雛祭に父兄を招く

平第二校がプロの準備

平第二小學校では例年の如く來る三日一般保護者を招待し盛大に雛祭を催す事になり各學年で父兄母姉達を喜ばすプログラムの編成に熱中して居る

青訓入所

適令者各町別

平町役場では過般來町內に於ける本年度青年訓練所の入所適令者を調査中であつたが合計三百六十三名で各町別は左の如くである

新町二　長橋町九　研町五　古鍛冶町一三　紺屋町二二　田町二五　一丁目五　二丁目八　三丁目一二　四丁目一五　五丁目一〇　新川町一九　材木町五　堂ノ前六　南町六　久保町七　胡摩澤一七　四軒町五　梅香町三　柳町五　鷹匠町七　仲間町一四　九品寺前一　鎌田町二三　立町一七　正月町二　禰宜町一三　月見町五　堤ノ內一　白銀町九　才槌小路一八　揚土二北目町九　大町六　鍛冶町三　十五丁目二　中町二　大工町三　番匠町二　舊城跡三　櫻町一　六間門二　杉平二　八幡小路七

山放題で煙に卷く

春風和やかと共に

つのる平署員の憂鬱さ

けふ午前十時頃平署の窓口に乞食風のルンペンが現はれ「故郷に歸りたいのだが新聞記者が材料に困つてツマリソノ放送局で放送して私を邪魔するのでソノ腹が非常に痛くなり相場はツマリ政府が生糸の相場を定めるのでソノ」と尻頭もない譯の判らぬ事を係り官に訴へてゐた、署員もこの迷言には些か面喰つた形だつたが漸く狂人と判明したこの氣狂ひは人事相談所から會計、特高室と廻り廻された揚句、住所氏名を書けと云はれ「山梨縣挑園村元勞働者野田明友卅三歳」と達筆に認めた

神經病も未だ初期らしく署員から若干の金を惠まれて追拂はれた、これから春風駘蕩として惱ましのさくら咲く頃ともなれば斯ふした類ひが署を賑はす？のには署員も憂鬱にならざるを得ないとこぼしてゐる

久保田氏の奇禍

昨夜堀を越えんと

誤つて轉落頭部を强打

十五丁目久保田パン店主久保田六五郎氏は昨廿八日午後十二時頃所用の歸途南町裏の溝を飛び越さんとしたが暗闇のため誤つて轉落頭部を强打して腦震盪を起し其儘不慮の死を遂げられた亨年六十四才因に同氏は平驛機關庫初代助役として活躍し退職後前記パン店を經營又十五丁目區長代理の職にあり今回の死を惜まれて居る葬儀は三日午后一時自宅出棺九品寺に於いて告別式を執行すると

本郡の徵兵檢査は

五月十七日に開始

▽……場所は平第一小學校

本縣第五徵兵署（石城一圓）の昭和八年度徵兵檢査は五月十七日から卅一日迄十五日間に亘つて平町第一小學校に於て行せられることに決定した

和田庄作氏

平町八幡小路警親會副會長和田庄作氏は永らく病氣の處昨二十八日午前一時逝去、行年六十四、葬儀は二日午后二時から平町大寶寺に於て告別式を執行する

山口教諭講演

磐女教諭山口彌郎氏は來る三日午後七時より內郷村御廐小學校に於て開催される御廐補習學校講演會に滿蒙の實狀に就いて題する講演を行ふと

平職業紹介所報告

回人を求める方

△炊事婦　四十以下　無學にても可　六七圓位

△女中　二十才前後　尋卒　月五六圓

△女中　二十以上　尋卒　給料面談

△外交員　二十四五才位　高卒　歩合五歩

△漁業雜役　十五六　二十才迄　無學にても可月五圓位

回職を求める方

△洋服見習　十六才　高卒　給料面談

△牛乳配達　二十二才　高卒

△土工夫　三十八才　尋卒　給料面談

△トラック助手　二十三才　尋卒　給料面談

△商店員　二十才　高卒　給料面談

今晩の部

▼後六、〇〇子供の時間　奉祝兒童交換放送日本より滿洲へ　祝辭二滿洲國歌滿洲より本へ答辭二君が代滿洲國帝制奉祝記念の夕東京丸ノ內東京會館より中繼

▼後七、三〇講演「祝辭」外務大臣　廣田弘毅

▼後七、四五滿洲より答辭　外交總長謝介石

▼後八、〇〇獨唱合唱管絃樂團新交響樂練習所より中繼

▼後八、三〇ラヂオドラマ「滿洲の春」

▼後九、一〇時報　ニュース　氣象通報　番組豫告

明日の部

▼前七、〇〇基礎英語講座（二十四）岡倉由三郎

▼前九、一〇料理献立「マカロニーライス」「阿部やゝ

▼前一〇、三五家庭講座「お節句の花」　押川如水

▼前一、〇〇太平山三吉神社梵天奉納祭實況（秋田市外赤沼三吉神社境內より中繼

▼後二、〇〇婦人講座「東洋道德と現代ノ婦人」文學博士中山久四郎

▼後六、〇〇子供の時間）物語「名提督ネルソン」未定

▼後六、二五言葉の講座（第一四講）音節と單語　神保格

▼滿洲帝制奉祝記念の夕

▼後七、三〇講演

▼後八、〇〇琵琶「滿洲帝國」木藤綿穰　木谷綿舟

▼後八、三〇浪花節「山田一等兵」津田清美

▼後九、一〇歌謠曲

明日の天氣

仙台氣象臺豫報

今晩は南西の風明日は西北風の天氣良し

看護婦急派の求めに應じます
平町南町
平看護婦會

外科・婦人科
井坂醫院
平町田町
電話五五九番

鉛劍乙女錄

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第百六十九回　徳川家に崇る村正

三人だけは御用

三吉が尾けて行くとも心付かず彼の武士は小諸など謠ひながら、金龍山下から山谷今戸へと掛つた

三『ハテナ、何處迄行く氣か、駕籠にも乘らず行く處を見ると、そう遠くまでは行くまいが……オツトツト振り返りやがつた、立留まつたぞ、氣取られやがつたかな……あゝそうぢやねえ家の傍へ來やがつたんだ、念の爲振り返つたんぞが好い鹽梅に此方を見付けねえやうだ、ア、入つた〳〵たしかに見當は附いた、少し間を置いてから行つてやらう』しばらく物蔭にかくれて樣子を窺つてゐたが、モウ大丈夫と思つたから、足音を忍ばせながら近寄つて見ると立派な門構えで、表札を見ると中根監物としてある『あゝ何だ金貸しの中根ぢやねえか　高利で貸して少しも情容赦もねえ處から鬼の中根と言はれる奴だが傍ら盗人をやつてゐるとは氣が付かなかつた、宜し當りは付いたがこれから證據を上げるまで一苦勞だ』

三吉は歸つて來る、一方友藏の方は吉原までつけ行くと新玉樓といふ家へ登樓つた、馴染と見えて若い者共にチヤホヤされてゐる餘程中へ入つて金貸ひなど調べようと思つたが、急いては事を仕損ずると思つたので、その儘歸つて來た、翌日鐵五郎の處へ又鈴木が

出張つて來て、色々打合せを致し、今戸の中根の家と吉原の新玉樓と、仲町の妾の處の三方へ手分けをして色々探索をした、先づ第一に調べ付いたのは吉原の方で彼の武士は田中と名乘つてゐるが金の使方は柄になく荒つぽい、時には三人連五人連で來ることもあるが住所は分らない馴染の女から手紙をやつてもそれが届いた例がないから宿所なども好い加減な事を言つてゐるに違ひない、それだけは分つたがこれといふ證據は上らない、今戸の監物の方も固より鬼といはれる位で評判の惡い事は一通りでないから併し土藏破りらしい處は少しも見えない、流石の鈴木も鐵五郎も途方に暮れてゐると又々下谷竹町の越屋といふ質屋の土藏を破つた五人組の賊がある、鈴木は地團太踏んで口惜しがつたが質屋から書出した品書を見ると　大分女の髮道具などがある斯ういふものならとにかく足が附く殊に依つたら吉原の鐵五郎などにやりはしないか、探つて見ろと云ふので三吉を調べ出やると、その考へはうまく的中して、龜甲バラ櫛にさんご五分玉金足のかんざしを貰つた事が判つた、愈々是で證據が上つた、ソレ召取れと充分支度をして鐵五郎の處へ出張致し、又三方へ張合を附けて知らせを待つてゐると仲町の妾宅へ中根監物か田中大木といふ二人の友達を連れて行つて酒を呑んで居るといふしらせがあつた、これ幸と鈴木は己れの手附と鐵五郎の兒分、尙二三人の御用聞きからも手を借りて、仲町の妾宅を嚴重に取り卷いて、突然裏と表から『御用々々』と打ち入つた、三人は大いに驚き太刀を引拔いて大いに暴れ廻つたが、充分の用意をしてあるから堪らない、忽ち田中、大木の二人は召捕になる、中根監物は柱を小盾にとつてすきあらば逃れ樣と八方に眼を配つてゐる、處へヅカ〳〵と前へ進んだ鈴木重太郎

重『中根監物、神妙にいたせ』

と十手を以つて打つてかゝつた

中『何を小癪な』

と只一打と斬つて掛つたが腕前の勝れた重太郎丁々と打合つてゐる内に、イエツと斬り下す監物の一刀をガツチリ受止めると十手に絡んでグイツと捻つた、監物『しまつた』

と引かうとしたが動かばこそ、これまでと思つたか一刀を投げ出して、小刀の柄に手を掛ける處を、躍り掛つて重太郎、小手をビシリと打つたから痛みに堪り兼ねてヒヨロ〳〵とよろめくのを、ドーンと体當りバツタリ倒れる處へ大勢が乘り掛つて繩を掛ける、妾のおとりといふ女もお竹と言ふ女中も皆繩り上げられて范然としてゐる重太郎ニツコリ笑つて

重『イヤ婦人先日は大きに世話になり、又今日もとんだ失禮をしたが、これもお上の御用で據ろない』

女『あれあなたは先日のマア斯ういふ人だつたのですか』とうらめしさうに鈴木の顏を見た。

長唄
花柳流舞踊
平町田町七二
花柳流舞踊研究所
花柳德三郎
杵屋十茂代
御稽古をおすゝめ致します

花柳病科
外科
一門專
木村外科醫院
自炊入院の便あり
平町六丁目橋際
電話三九〇

評判香りのよい……
電熱ほうじ茶發賣
一號　一斤六〇　四半斤一五
二號　一斤四〇　四半斤一〇
童謠
大黑ばしらは家の王
お勝手道具は世帶王
大勝園で買つた茶は
茶の間の王よ客間王
父樣母樣おすきの茶
客のほめる茶喜ぶ茶
平三
大勝園
電三九六番

10日
檢査機設
新
体溫計の檢査日です
お宅の體溫計は？
◎正確な体溫計を御使用下さい
◎毎月十日の檢査日御利用下さい
度量衡計量器　指定販賣人
西村屋藥局
電三番

磐城共濟病院　電話六四一番
內科　院長　醫學博士　石山謙郎
小兒科　副院長　醫學士　五十嵐雄二
產婦人科　毎日診療
外科　醫學士　有馬勇二郎
皮膚泌尿病科
耳鼻咽喉科
X光線科　醫學博士　石山謙郎
物理療法科　技術員　石山彥郎
藥局　藥局長　吉本孝平
衛生試驗所　藥劑師　高後利雄
事務長　醫　鈴木寶雄